



バーコードの中で、いちばん高い値段はいくらなの

バーコードには、商品の値段は入っていない

バーコードが、日本で使われるようになったのは、1978年ごろからです。その後、日本全国に広くゆきわたり、バーコードがついていない商品は、ほとんど見かけなくなりました。

バーコードには、いくつかの種類がありますが、どれもあてはまるのは、白と黒のバー(棒)のいちばん細いはばを決め、それぞれのバーが、その何倍かのはばがあって、白と黒が、どのように組み合わせられているか、を読みとるしくみになっていることです。

白と黒のバーコードは、13けたのコード番号を表しています。初めの2けたが国の番号を表し、次の5けたがメーカー(会社)のコードで、続く5けたが商品などを表すコードです。最後の1けたは、前の12けたの番号に、まちがいがいがないかどうか、を確認するためにつけられています。バーコードには、商品の値段は入っていません。

バーコードだけで、商品の値段はわからない

バーコードは、レーザー光線が出る機械で読みとられ、バーコードに入っているデータ(情報)が、レジに打ち出されます。バーコードには、商品の値段が入っていないので、商品の値段は、別のコンピュータ装置に、記憶させておいて、そこからレジに呼び出されます。このようなわけで、バーコードの中のいちばん高い値段は、わからないのです。

バーコードのデータは、レジに打ち出されるだけでなく、商品を管理しておく、コンピュータにも入ります。(監修・青木 国夫)

